

主な取組状況と今後の予定

最上川ダム統合管理事務所

最上川上流の減災に関する取組(最上川ダム統合管理事務所)

令和2年度実施内容

○事前放流の実施体制の構築

- ・最上川水系全体で関係利水者との「最上川水系治水協定」を締結(R2.5)
- ・最上川ダム統管管理3ダム「事前放流実施要領」の制定(R2.6)

※令和2年度における実際の事前放流実績はなし。

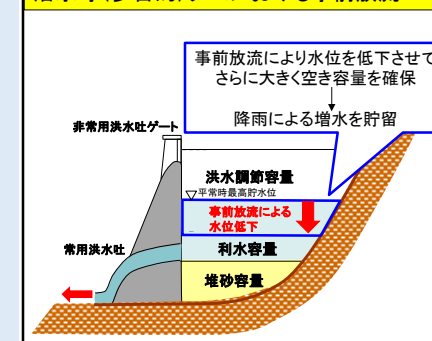
○ダム放流情報を活用した避難体系の確立

- ・ダム放流通報連絡会へのマスコミ関係者参画への説明
- ・関係機関へのダム放流通知文の見直し(よりの確に緊急性を伝える表現)

○防災教育や防災知識の普及

- ・地域学校への出前講座やダム見学時での防災に関する説明(通年)

治水等(多目的)ダムにおける事前放流



令和3年度実施内容(実施済・予定含む)

○事前放流実施体制

- ・実施要領等に基づく確な対応

○ダム放流情報を活用した避難体系の確立

- ・ダム放流通報連絡会へのマスコミ関係者の参画

○防災教育や防災知識の普及

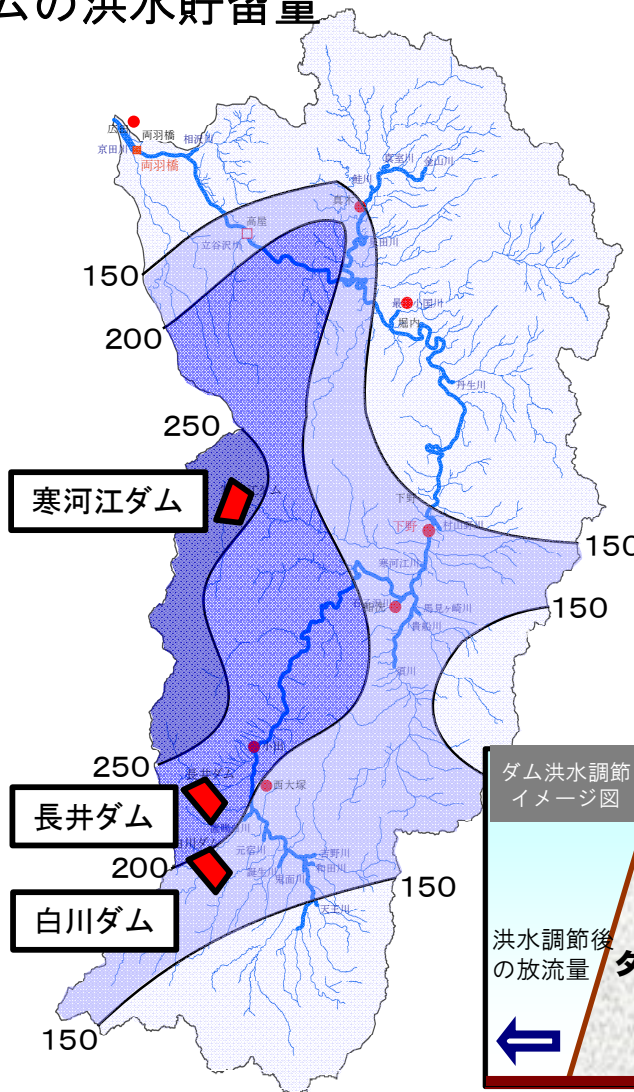
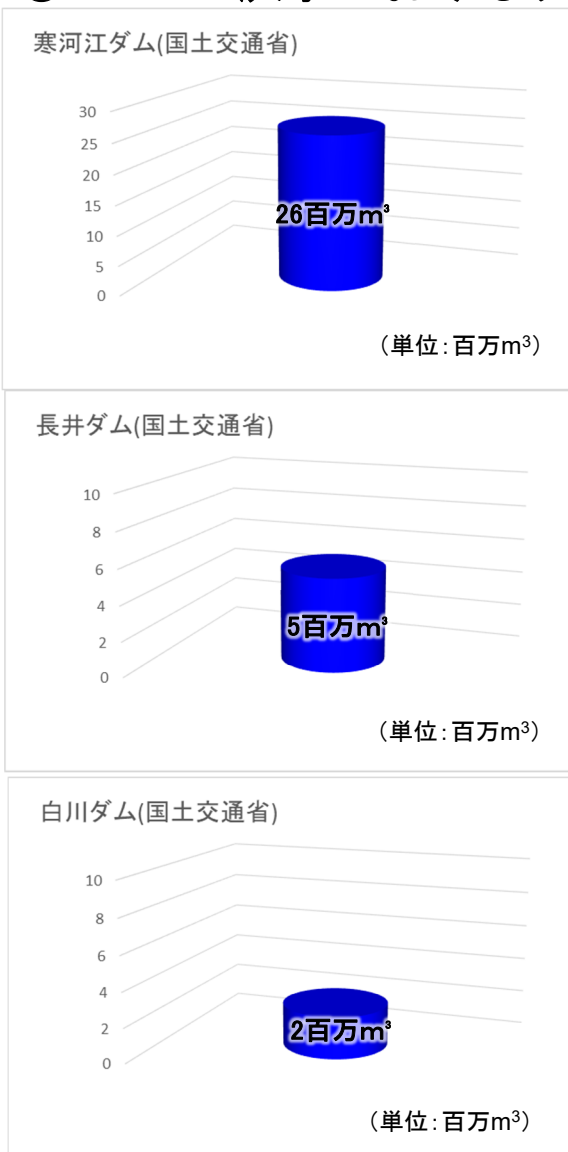
- ・自治体等での防災訓練等への出前講座(新型コロナ感染状況に応じ)



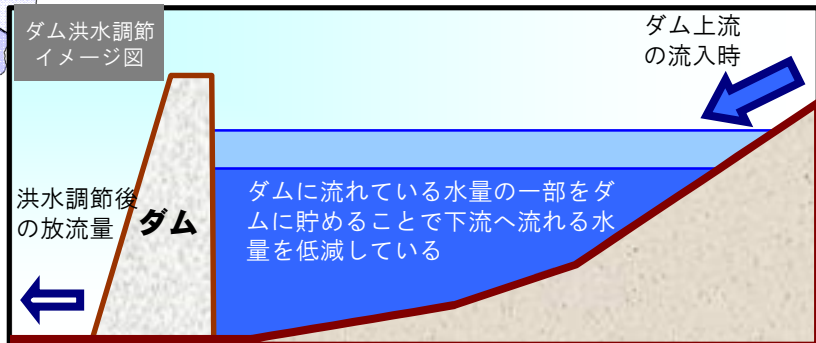
【情報提供】 R2.7.28洪水におけるダムによる洪水調節

最上川上流大規模氾濫時の
減災対策協議会
最上川ダム統合管理事務所

◎R2. 7. 28洪水におけるダムの洪水貯留量



◆ 最上川流域では、国土交通省が所管する寒河江ダム、長井ダム、白川ダムで約33百万m³（東京ドーム約27個分）の洪水を貯め込み、被害軽減に寄与しました。



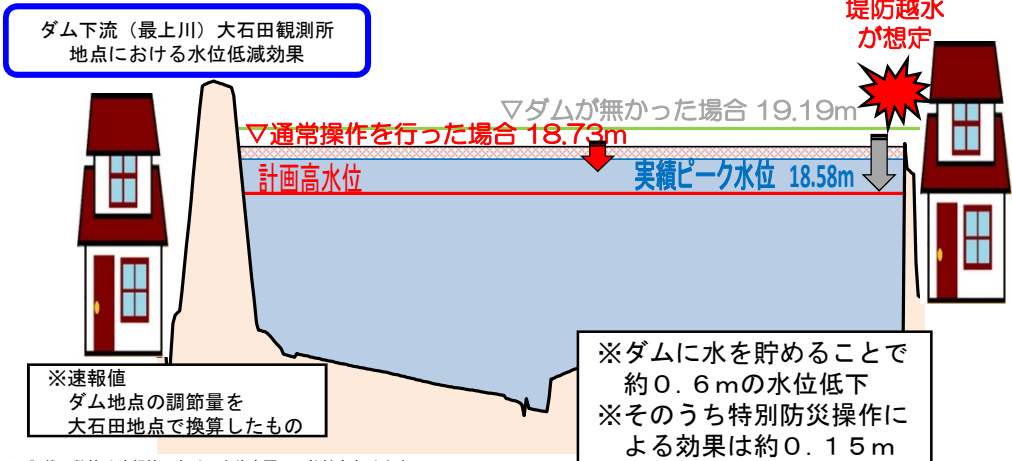
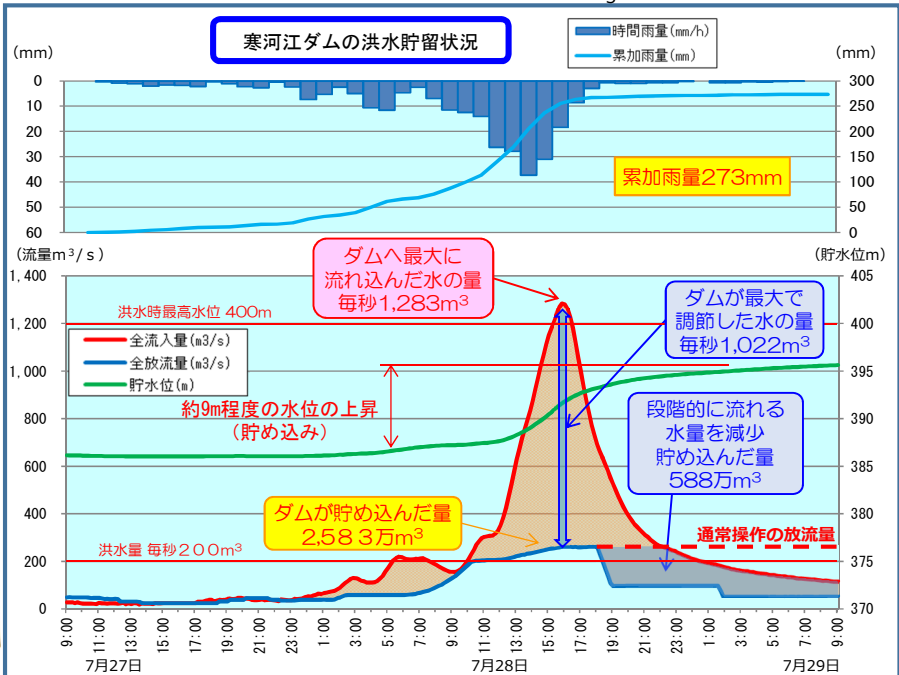
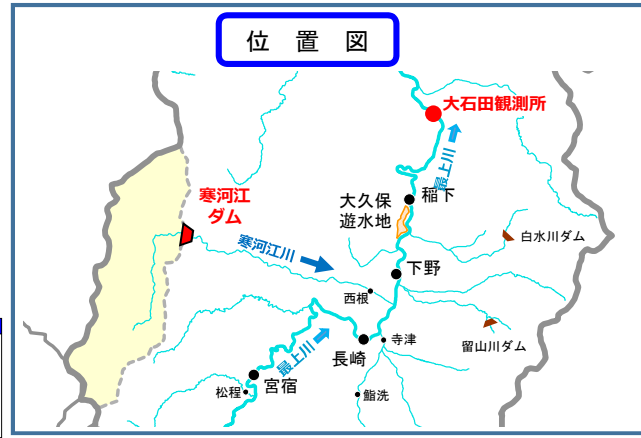
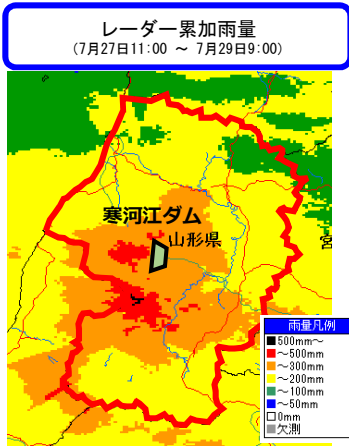
※記載の数値は7月30日時点の速報値であり、今後変更の可能性があります。

出水速報

最上川水系 寒河江ダムの効果（令和2年7月27～29日 前線に伴う洪水）

- 前線性降雨により、寒河江ダム上流域の累加雨量は273mmに達し、最大流入量は毎秒1,283m³【管理開始（H3）以降第1位】を記録しました。
- 今回、下流河川の水位上昇軽減を図るため、今後雨が降らないことを確認の上、ダムに貯め込む水の量を増やし、ダムから流れる水の量を減少（段階的に60m³/sへ減少）させる操作（特別防災操作）を実施しました。
- 寒河江ダムでは特別防災操作により、通常操作よりもさらに約588万m³（※東京ドームで約4.7杯分）の水を貯め込み、最上川本川の大石田町大石田地点で通常操作を行った場合より約0.15mの水位を低下させ、堤防越水のリスクを低減させる効果があったものと推測されます。

※東京ドーム約124万m³



※記載の数値は速報値であり、今後変更の可能性もあります。